

富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議
平成 25 年度第 3 回人材育成専門部会（議事概要）

日 時 平成 26 年 3 月 31 日（月） 10:00～11:30

場 所 パレブラン高志会館「麗花」

議 事 （1）平成 26 年度中小企業の振興と人材の育成等に関する施策の概要
について
（2）その他

委員からの主な意見

【U I J ターンの推進】

- ・ 今後、地方に提供されるハローワークの求人・求職情報を県のUターン情報センター等でも活用し、引き続き、若者のUターン促進に努めてもらいたい。施策を進めるに当たっては、①首都圏本部との連携、②「ちゅ～なび」の情報発信能力の強化、③親や祖父母に対する効果的なアプローチに配慮してもらいたい。
- ・ U I J ターンに関しては、首都圏だけでなく、将来的には全国に幅を広げて取り組む必要がある。
- ・ 富山県は進学校が多く、県外で就職する人も多いが、親の介護等で地元に戻りたいとの思いを持つ人も多い。このような人をどう活用するか検討する必要がある。

【女性の活躍促進】

- ・ 女性の就業支援については、部局間の連携が難しい分野だが、ぜひ連携を取って取り組んでももらいたい。富山県は三世代同居率が高いが、結婚後の離職率や非正規雇用率については、三世代同居率が高ければ低いという関係がある。これをどうキープしていくかが課題。
- ・ 女性財団では、女性の再就職支援のためのセミナーや女性管理職を対象とした研修等を実施しているが、このような情報が行き届くよう、部局間の連携を図ってもらいたい。
- ・ ディベート力や語学力などに優れた女性は多い。今後、このような優秀な女性をどのように活用するかが重要。

【人材の確保・育成】

- ・ 高度ものづくり人材の確保・育成に関しては、技術や管理力を持った指導者の育成・確保が課題。

- ・ 今、各企業は、研修等になかなか人を出せない状況にあるので、ものづくり人材育成のための在職者向け訓練の実施に際しては、企業の理解を十分に得る必要がある。
- ・ 技能継承、職人の技、伝統工芸などアナログ分野にも目を向けてもらいたい。ライフサイエンス分野に進む技術系の人が多いが、基礎技術系に進む人も必要。
- ・ 中小企業の人材育成・確保には、教育などソフト的な事業も重要。また、14歳の挑戦事業をはじめ、何事にも恐れずにチャレンジしていく精神を高めていく事業も必要。

【職業訓練・研修の推進】

- ・ 職業訓練については、ヨーロッパでは、失業予防型の職業訓練に移行している。県においても、在職者にどう訓練するかが重要。また、職業紹介と職業訓練をどう組み合わせるかが非常に重要。
- ・ 研修に関しては、企業ではOJTを行うので、県ではベーシックなものとしてもらいたい。
- ・ 県においては、訓練の実施だけでなく、求人企業の意識改革やマッチングなどの訓練生の再就職支援強化の施策も強化してもらいたい。

【職場環境の整備】

- ・ 心と体の健康について、研修や意識の向上を通じて、管理職が部下をサポートする体制を構築する必要がある。
- ・ 高齢になっても、自分の力を発揮できるような環境づくりに取り組んでもらいたい。

【県に対する要望等】

- ・ 処遇改善支援事業の実施に当たっては、国の賃金改善支援事業等とも連携しながら、進めてもらいたい。
- ・ 処遇改善支援事業の「処遇改善計画」については、できるだけ簡単なものにしてもらいたい。
- ・ 労働者派遣法が改正されるが、県においては、国と連携し、混乱が起きないように、取り組んでもらいたい。
- ・ ICTの活用、職種転換、技能の向上への補助、再就職支援を含む離職者に対する支援にも力を入れてもらいたい。